

悪役令嬢として、義弟のえっちな騷！

がんばりましょう！

制作 warm bath

脚本 白井沫

トラック1「とっても怖くて厳しそうなお嬢様」

「はじめまして」

（ひ、ひう……。な、何で僕が、お貴族様のお屋敷に……）

「アレクサンダーと、います」

（僕一人で、あう、あう……。なんで挨拶なんてしてるんだろ……）

（こ、こんな……。沢山の人の前で、僕なんて……。なんで、なんで……）

「今日からテイラー伯爵様のお屋敷に……。その、身を置かせてもらう、ことになりました」

「お、おじょうさま、が、あの、その、僕の、あの、その」

「は、はい！」

（ひうあゝ） あうあうあう……！

（ぼ、ぼぼぼ、僕みたいなのが、お貴族のお嬢様を『おねえさま』なんて呼べない……）

（ぜんぜん釣り合わないし、無理だし、怖いし……）

（でも、でも、……言えって、言ってるし……）

（目、怖いし……）

「も、申し訳ありません、お、おお、おねえ、さま……」

「あ、あう……」

「た、ためいき……」

「やっぱり僕、来るんじゃないか、」

「ひゃい！」

「ご、ごめんなさい！　ボソボソ喋って申し訳ございません！」

「あ、あ、あう」

（背筋伸ばせ！）

「は、はい」

「背筋、伸ばします」

（う、うう……っ、ど、どうやって……、そんなの……むりだよ……）

「も、もうしわけ、」

「は、はいい！」

「謝ってばかりで申し訳、あ、ちが、ご、ごめんなさ、あ、あう、あう」

「あ、あう……」

（頭下げると怒られるし、でもお貴族様に謝らないとか無理だし）

（でも全部駄目って、……いわれた……けど）

（でも、でも……不敬罪で……うったえられる、かも、だし……）

（ひっ！）

（やっぱり呼びつけ方、お貴族様だもん……！ 僕と全然違うところに住んでる人だよこ
んなの……！）

「は、はい」

「つ、付いて、参ります」

「あ、はい……」

(どもつちや、だめ……)

「も、もうしわけ、ありません」

「ほ、本当に……もうしわけ……」

「う……」

「僕、本当にやっていけるのかな」

トラック2「おじよ、おねえ様とお風呂」

「あ、あ、ああの、ぼ、僕、そのあの」

（こんな綺麗なところ歩かされて、ど、どうしよう）

（絨毯とか色んなものの汚しちゃわれないか不安、なんだけど……）

「あ」

「申し訳ありません！ く、臭かったですか!？」

「み、みみみ水最後に浴びたの、一週間前で……っ」

「僕が水浴びして良い日がまだで、でもまだ臭くないと思って、お洋服だって綺麗でお客様にもご当主様にも失礼の無いようしているつもりだったんです本当です!」

「ほ、本当に申し訳、」

（え、嘘！）

（歩いてきてる歩いてきてる）

（待つて待つて待つて来ないでこないで、その可愛い顔面近づかれると本当無理！
呼吸も無理になっちゃう同じ空気吸っちゃうの無理）
僕

「え、な、何何何、な」

（ひいつ！）

（お貴族様の！ お綺麗な手が！ 僕の腕掴んでる!!）

（い、いいい、こわい！ こわいかお、こわ）

「ああああああ！」

（え、うわ、ちょ、こわ、え）

（引っ張らないでくださいいいいい！）

「何、何、アっ、ちょ、お嬢様服引っ張らないで……っ」

「あっ、や、あ、やめ、おじよ、あ、ごめんなさい、おねえさま、お義姉様！ 服返して下さい！」

「ひっ！ あ、あう、ご、ごめんなさ」

「きゃあ!？」

（何で僕、こ、こんな、こんなお貴族様に服剥かれてるの全裸なの）
（なにこわい、僕死ぬの!）

「あ、や、やめ、僕、僕、あの、あの」

「ひ、ひひひ一人でも！ 大丈夫ですからあああ！」

「は、はう……」

「は、はい。す、ごく、あの、よかったです」

「体、洗ってもらうのも、シャンプーも」

（えへ……えへ……誰かに洗ってもらうの、なんて、初めて……）

「あ、あと、マッサージも」

（お嬢様の手、わしゃわしゃ……すごく、すごく、丁寧に……やさしくて……きもちよかった……）

「えへへ……」

「ん、んんー」

「あ、あったかいです」

「あ。は、い、肩まで……、お湯、浸かります……」

「んんう……、はうー」

「あ、そ、そうです。初めてです、こう言うの」
「誰かに、洗ってもらうの、なんて……」

「温かいお湯も、初めてです」

「なれ、る」

「なれ……慣れ……」

「がんばります」

「明日から、毎日、お風呂……」

（あしたから……まいにち……）

（このかたと、おふろ……？）

「あ、あし、あしたも、あの、おじよ（あつ、ち、ちが、ちが……っ！）、」
「お、おねえさま！ と、お、お風呂、ですか……？」

「あつ」

（ちがった）

「あ、そ、そう、なんですネ……。使用人、の方と……」

「わかり、ました」

（そ、そっか、そ、うだよネ……だって、う、……えっちだもん）

「でも、毎日、ソ、こうやって、ぬくぬく」

「あ、ソ、おねーさま。くすぐりたいです」

「首、撫でられると、ア、僕……」

「はい」

「ン、はい」

「身嗜み、綺麗……します」

「へ……？」

「ぼくが、とうしゅ、こうほ？」

「え、なんで」

「ご当主様って、お義姉様になるんじゃない？」

（あ、でも、この方と同じなら……えへ……）

（このかた、ぼくのねーさんに、なってくれるんだ）

（えへ……かぞく、に、なって……くれ、るかも……）

「あつ、なに」

「ん、あ、頭、あたま撫でられると僕、あ、ん、んう……」

「んー……」

「ほあ？」

「かみいろ、いっしょ？」

「？」

「僕、お義姉様とは、その、違う色だと……」

「ご当主様方、と？」

「あ」

（え、どうしよ、え）

「あ、えと、そ、そう、なんですか」

（この方は、あう、悲しそうな顔、するけど、あう……）

「て、ていらーらしい……」

（ぼ、ぼく、べつに）

（う、うれしくない）

「こんなくすんだ金髪、よくあると思うのにな」
（貴女と、一緒の色でもないのに）

「ン、ンン……」

「僕は、その、おねえ、さまの髪の方が、その、綺麗だと、思います、……けど」

「あやっ、ん、んー！」

「あ、ま、まって。撫でられるのは、あ、ん、……んんー」

「あつ、は、はいい。ねむたい、かもです……っ」

「ん、……はうー……、あ、きもち、です」

「はいい、これから、ン、毎日、お風呂します」

「おべんきょお、して、がんばって、あ、あにゃ、あ、きれいにして、ん、んー……ッ」

「い、いいこ？ ぼく、ア、いいこ？」

「え、えあ、あ。……え、えへへ」

「えへへへえ……♡」

「あ、あや、ア、ン、は、はい」

「はい」

「ぼく、がんばりますう……♡」

トラック3「たすけてください、おねえさま」

「ひいつ」

「はー……っ、はー……ッ！」

（大丈夫、布団にこもってたら大丈夫、だいじょうぶだいじょうぶ誰も来ない大丈夫何も聞こえない大丈夫何ともないし大丈夫大丈夫大丈夫

「ッ！」

（だれか、だれか来っ、だれ、だれ、だ

「ひっ、ひ、おね、さま」

「お義姉様あ！」

「おねえさま、おねえさまおねえさま」

(あったかい、だれかのたいおん、はじめて。あったかい)
(ひとりじゃない)

「ごめんなさい、ごめんなさいっ」

「こんなの駄目だって言われると分かっています。でも、でも」
「ぼく……っ」

「ん、んんう」

「んむ」

「あっ、あう、あ……」

「おねーさま」

「おねえさま」

(ぼくの、おねーさま)

「こ、わかったです」

「こわくて」

「雷が、雷も、ぜんぶ」

「頑張ろうと思って、でも体駄目で、ガタガタして」

「こわくて……っ」

「あ、んむっ、んんう」

「おねーさま」

「あう」

「手……、あったかい」

(ぎゅ、……ぬくぬく……)

「あ、あは……。お義姉様にぎゅってしてもらえて、へへ……。安心、しちゃって」
「震え、止まったかも、です」

「ン、んん」

「あり、がとうございます」

「あの、その、えと……」

「ひいっ!？」

「あ、あ、あ……」

「へあ……?」

「いっしょ?」

「ずっと?」

「一緒に……?」

(ずっとずっとずっと……?)

「あ、あうっ」

「あ……」

「あ、あう、あ、……は」

「だい、だいじょうぶ。だいじょうぶ、です」
「ぎゅって、されてるから」

「え、えへ」

「は」

「へへ」

「雷は、苦手、です」

「あらしも、ちよっと」

「昔から駄目で」

「あ、あは、あはは」

「僕、孤児院に捨てられてた日が嵐の日だったみたいで、あは」

「雷が、凄かったらしくて」

「それで、はは、その、ちよつとあはは」

「こういうひ、だめなんです」

「いきも、むずかしくて」

「どうしようも、なくって」

「でも、へへ、はは」

「だれかと、いっしょなんて、はじめてだから」
「だから」

「ちよつと、こわくないです」

「は、あえ？」

「あ、ちよ、んんっ！」

(お、おふ、おふ、おふと、おふ、つ、つれこまれちゃった。)

(あ、あう)

(あう)

「あ、んう」

「おねーさま」

「はう、う」

(ちかい)

(ちかくて、)

「お義姉様、良い匂い」

「あまくて、なんだか、おちつきます」

「ん、ん……」

「えへ」

「はい」

Warm bath

白井沫

「はい」

「ありがとうございます、お義姉様」
「すんっ」

トラック4 「お義姉様の『ご教育』の始まり」

「お、お義姉様！」

(ようやく帰ってきて下さった！)

「あ、あの！ 僕、お勉強、頑張りました！」

「お義姉様の出された課題は終わっています」

「えと、あ、あの、お義姉様がお帰りになったと聞いて、あの、その……」

「お、おかえりなさいませ、お義姉様」

「あの、えと」

「ほ、褒めて、下さいますか……？」

「わきゃ!？」

「あ、あう。あ、頭、撫で撫で」

(ごほうび、ごほうびだ)

「あうあう……あ」

「う、うにゅ」

「あう」

「んん、……んふ」

「あうー……」

(あたま、ふわふわする……)

「あ、あう」

「も、もう、お終いですか……?」

「あ、そ、そう、ですか」

「あう!？」

「あ、あ、……ど、堂々とする……」
「も、申し訳、」

「あ」

「謝るのも、駄目でした、ね」

（えと、えと……どうどう……堂々……）

「ん、んん」

（おねえ、さまを、真似て……、胸を、そらして）

「えへ」

（背筋、よく、ですよね？）

「あ！」

「今夜、僕の部屋にいらしてくださいさるのですか？」

（それってなんだか、すごく仲良しみたい……！）

「嬉しいです！ 絶対起きてますから！ 待ってますから！」

「楽しみに、しておりますっ！」

「えと、あの。お義姉様？」

「どうされました？」

「ご体調でも悪い、ですか？ その、顔色が……」

「あ」

「そ、うですか？」

「いえ。問題がないのでしたら、それが一番、なんですけど……」

「お苦しそうでした、から。どうしたのかな、って」

「？」

「分かりました」

「でも何か、その、お悩み事でもありましたらご相談下さいね」

「僕、お義姉様の為なら何だってしますから」

「お助けできることがありましたら、何だってお申し付け下さい」

（あ、おねえさま、わらった）

（よかった）

「へへ、えへへ。はい！」

「いつだって僕は、お義姉様のことを思っております！」

「あにや……？」

「あ」

「おねーさま」

「お、お義姉様……?」

「ぼ、僕の、あの、お、おち、おちんちん、踏んで、ど、どうし……?」

「裸足、なんて」

「おね、さまの、その、お御足みあしが汚れてしまいます……よ……?」

(おふろ、は、はいってる、けど)

(ち、ちが、う、いみで……よごしちゃいそ、)

「あうっ」

「な、何……、え?」

「何ですかそのとろっとしてるの……」

(それ、まさか、いやでも)

「え、嘘、何、まっ」

「あんっ!」

「あ、あ、あ、」

「にや、あ、なに、あつ、あ、あ」

「おね、さまあ！」

「あつ、あつ、おちんち、あつ、ちゅこちゅこ、しな、でえ……！」

「んっ、んっ」

「あ、や、やあ」

「え、えっち？」

「い、いんりや、あ、あう」

「ん、ん、ご、ごめんにやさ、あつ」

「お、おねえさまあつ」

「さきつぽ、あ、やだ、や」

「あたまあ、まっしろになっちやうう」

「おね、さま、おねーさま」

「きやうつ」

「あ、にや、に、びりびりすゆ」

「おちんち、ピリピリして、ア、」

「あーっ！」

「いた、いたい、おねえしゃま、いた」

「あうう、あし、あしい」

「やめて、おね、さま」

「や、あ、あ、あ、」

「おね、さまあつ」

「なんかきちやう、きちや」

「あしやめて」

「きちゃうからあつ」

「きちゃ、でちゃ」

「でう、うううっ！」

「あ、あう」

「あ……」

(ほ、ほん、とに、でちゃ、)

「は、う、うう……」

(お、おねーさまの、あしに)

「あうううっ」

(この、きれいなひとに……！)

「お、お、おもらし、しちやったあ……っ！」

「おね、おねえさまの、あし、よごし、よご、」

「うえええええっ」

「あ、あう……っ」

（あ、あとしまつ、まで）

「あう……」

「お、おね、えさまあ」

（しぬ。しんだかもしれな、）

「ひつ、ひつく」

「おねえさま、おねえさまあ」

「あう、あう」

「あたま、なでなで」

「きもちい……」

（何も、考えられにや、……あうう）

「あにやう……うう……」

「あ」

（終わっちゃ、……ええ？）

（い、インバイ、イヤシイ……）

「あ」

「お、おやすみ、なさい」

「ませ」

「いんば、いやし、」

「え、あ、う……？」

「え、ええ？　すごい棒読み」

（どう聞いても、罵倒じゃない……）

「お義姉様、演技力ひつど……」

トラック5 「お義姉様の期待に応えたい」

「お義姉様」

「おかえりなさいませ」

「この間の夏休みは、お帰りにならなかったので、すごく久しぶりに感じます」

（本当に、ほんとうに。ひさしぶりだ……）

（手紙だけじゃ、足りないのに）

「とても、……さみしかったです」

「お義姉様がお家の^{いえ}の為に、ご帰宅なさってるのは重々承知なんですけど、その、えへへ」

「でもお義姉様、こちらにいらっしゃる間は、僕の相手もして下さるでしょう？」

「えへ、うれしいです……えへへ」

(……ん、お義姉様も笑ってくださってる)
(今のうちに聞いておこう……)

「きょうは、あの、その」

「きよ、……今日も」

「あ、あの」

「^{しつけ}寝て、いただけますか？」

(えっちなこと、してくれますか？)

「お義姉様の、手で」

「ず、ぼん、ぬぎました」

「そ、それで！ ど、……どう、したら」

（あ、あえ？）

「きょうは、手、なんですか？」

（え、なんだか、……すごくふつう）

「あ、いえ！」

「お義姉様ならなんだって！ その。す、……すきです」

「今日も、あの、足で、舐けていただくのかと、ばっかり……思っ、いたので」

「へ？」

「あっ」

「ぼ、くが、手で、って言った、から……」

「あ、えー……。え？ そ、そう、なんですね」

「はえー……」

「僕の要望、通るんだ……」

（仮にも『舐』って言ってるのに……？ それでいいの？）

（変なのー……）

「う。うう」

「あ、あの、その、それは、その」

「も、もしかして、その、初めて、あの、僕を舐けていただいた際に、あの、使われた
……」

「あ、今回は温めて、つかう」

（あたためて……）

（……ねえさまの体温で？）

「はあ。そう、なんですね」

「へー……」

（謎のサービス精神……）

「エッ」

「あ」

「冷たかった、ですかね。そ、そうだったかも……」

「その後のえっちなことのせいでちょっと……、覚えてないから」

「あ、あはは。ご配慮、ありがとうございます」

「？」

「お義姉様、何か意を決している」

「すごく、真剣な顔だ……」

「あ、は、はい！」

「あし、ひろげます」

「きやう」

（お、おとおお、おねえさまが、僕の足の間に……！）
「お、おね、さま」

「あの、その、えと」

「ち、ちかい」

「んく」

（ど、どうしよう、どうしたら、いいかな）
（口とか臭くない？ 変じゃないかな、僕）

（は、はずかしくて、うごけない……）

（……）

（……あれ？）

「あ、あの。おねえさま」

「触られないのです、」

「きやう！」

「あ、あにやあ♡」

「ああ、あったか……」

「おねえさまの体温、あったかい」

「ん、ん」

「はあう」

「おてて、柔らかい」

「おね、さま、の手、こんなに小さかったんですね……」

「お義姉様の可愛い手が、僕のちんちん、撫で撫でしてる」

「えへ。えへへへ……♡」

（頑張っていらっしやって、えへ。えっちでかわいい）

「あうっ！」

「あ、あ、急に、握ら、な」

「ン、ン、ン」

「あ、ああう、上下にい、ちゅこちゅこされるのだめ」

「あっあっ、だめ、なのに」

「おね、さま、おねえさまあ」

「あう、あう、あう」

「先っぽお、ぐちゅぐちゅされるの、きもち」

（あ。ねーさま）

（髪）

（耳に、かけてる）

（耳、見えてる）

（めずらしい）

「おねえ、さまあ」

「今日はあ、髪、かけてるんですね」

「お耳、いつも見れない、お耳」

「あ、あ、」

「ン」

「おいし、そお、ですね」

「あ、んむ」

（……うゆ。手、ずっとうごいてない）

「うぷあ」

（なんでだろ……）

「お、ねえさま？」

「あ、あの」

「きよ、きょうはもう、おしまい、ですか？」

「ひゃうん♡」

「あ、あや、あ、あ」

「ま、まだあ、ですよね」

「あ、あ、ご、ごめ、なさ」

「駄、ですもんね」

（お義姉様、いつも最後まで僕の面倒見てくださいますもんね）

（たくさん、ソツ、びゅっびゅ、する、まで）

（ご丁寧に……）

「う、ン、ん、」

「僕、僕」

「おねえさまあ、ン、ン、」

「お御足より、あ、ちゅこちゅこ、ゆっくりでえ」

「あう、あ、あ」

「ンッ、も、もっと、強く、してください」

「おねえさま、おねえさま」

「お耳、まっかです」

（僕の、声が耳にかかるの、恥ずかしいです？）

「まっか」

（かわいい）

（かわいい、ぼくの、ねーさま）

「あまそう」

「おねえ、さまあ」

「おねえさま」

「は、あー……」

「んむゆ」

「こり、おりしてへ、たのひ」

「おねーさまの、みみ、はむはむ、たのひい」

「おね、さま」

「おねーさま」

「も、でちゃ、でちゃいます」

「びゅーって、おねーさまの手に」

「びゅっびゅ、僕の、でちゃ」

「でちゃ、あ、あ」

「あっあっ」

「んーっ！」

「あ、は、はー、はー……」

「はう、あ、あ、は……」

「んく」

「お、おねえさまの手、僕の白いのでどろどろ……」

（手首まで、どろって）

「えへ。えへへ……よごしちゃった。えへへへ」

「はう……？」

（手？　じつと見てどうしたんだろ、）

「ひっ！」

（なめ、）

（なめた!!　このひと！　僕のちんちんから出たの、舐めた!!）

「お、おおお、お義姉様!？」

（それはちよつと！ はずかし、というか、いや、あの……！）

「な、なんで舐め、」

「汚いです！ 僕の、その、ぼ、ぼくの、ちんちんから出た、もの……ですし……！」

「あ、あうあう……」

「お義姉さま、あの、手、拭きましよう」

「舐めるのは、あの、良くないというか。きたない、と、というか」

「きやうん！」

「あ、あや、あ、あ」

（いった、ばっか、なのに、きもちーきもちー、されるの、だめ）

「ご、ごめんにやさ、勃っちゃって、ごめんなさいい……っ」

「僕の汚いの、舐めてるおねーさまに勃っちゃって、ごめんなさ、」

「ほえ……?」

「しつけ?」

（まだ、えっち……?）

「もう一回……?」

（して、くれる……?）

「は、はいっ、お義姉さまっ」

「やうっ」

「おね、さま、おねえさま」

「ちゅこちゅこ、上下にされたらあ、またイツちゃ」

「もつとゆつくい、ゆつくい……っ」

「あ、あ、あ、あっ」

「あ、はう」

「おね、さま？」

（？）

（手も、止めて……）

（なに、なに、して……？）

「どこ、……？」

「何を、見ておられるんです？」

「おねえさま？」

「お義姉様」

「僕の躰をして下さるんじゃ、」

（あ、こちらをお向きになった！）

「んむっ！」

「お、おねえさま？」

「どう、なさい、」

「は、あうむ」

「ん」

「う？」

(くち、くつついて、る……)

「んむあ」

「あ、あう」

「ちゅう、だ」

「ちゅう、されちゃった……」

「エ」

「え、あ、い、嫌？」

「ぼ、僕が、嫌に思うか、とかの話、ですか……？」

「えあ、あ、そ、そうですね。そう聞かれますよね」

「何か、期待されている」

「僕、何かを期待されてるぞ……」

「え、えーっと」

「ゴホン」

「い、いや、です」

「あ、あう、あうあうあうあう」

（満足そうにされてるけど！ 僕は！ 罪悪感！ いっぱいですううう!!）

「お、おねえ、さ、」

「あや、んむ！」

「んゆ、んむ、ン、ン」

「あ、あ、あ、イッちゃう、いっちゃう、いっちゃ」

「お義姉様の手に、だしちゃう。お義姉様、汚しちゃうう」

「あ、いく、いく、いく」

「お義姉さま、イ、……んーっ！」

「あ、あ……、は、は、はー、……あ、はう」

「たくさん、だしたあ。いっぱいでちゃったあ」

「お、おねえ、」

「んむうっ」

「ん、ちゅ……、ちゅう……」

「は、あ」

「こ、これも、騷、ですか？」

「そ、そう……、これも……」

(つまり……)

(しつけ、って、いったら。……キスも、してもらえる……)

「えへ。えへへへへ」

「はあい、お受けします」

「お義姉様あ」

トラック6 「お義姉様とご奉仕のお勉強」

「おかえりなさいませ、お義姉様」

「最近たくさん帰ってきて頂けて、僕嬉しいです」

（たまにただのお休みでも帰ってきてくださいますし……）

（その時も僕と『えっち』してくれて……）

「えへ」

（でも長期休暇のほうが嬉しい）

（ずうつつと、お義姉様が居なくなること考えなくて良いんですもん）

「あつ、も、勿論お義姉様はお家のお仕事とか、お勉強関係で帰ってるって分かってます！」

「分かってるんですけど、えへ……」

「でも、嬉しいですよ」

「あ、そうだ。この間新しくケーキ屋が出来たんですよ」

「評判も良くて、食べてみたら美味しくて！ お義姉様にも食べてほし、」

「あ」

（買ったやつ、そういえば食べちゃったな……）

（一週間前だったから……、どうせなら保存魔法でもかけておいておけば良かった）

（失態だな、僕）

「えーと」

「ケーキは、その、食べちゃったんですけど、えと」

「焼き菓子があります！ はい！」

「後でお持ちしますね」

（一緒にお喋りしながら食べよーっと）

（ん？）

「お義姉様？」

「今日も、何だか、その、あまり顔色が良くない、と言うか」

「もしかして本日のご帰宅はご療養でしたか!? すぐにメイドをお呼び、」

「あ。違う」

「そうです? なら、安心です、けど」

(じゃあ、もしかして……)

「も、もしかして、その、僕に、あの」

「新しい躰を、とお考えなんじゃないかな、とか……」

「あ! 本当ですか？」

「では僕、本日もお待ちしております」

「はい♡」

「お義姉様！」

「今夜も良い月夜ですね。いらっしやいませです」
「どうぞいらして下さい」

「今日はどう騒げて頂くんでしょう？」

「はい」

「はい」

「ご奉仕」

（ごほうし）

「ご奉仕」

（すごい、僕に都合良さそうな単語出てきちゃったなあ……）

「一体、どのようにすれば……？」

「あ」

「はい」

「待ちます」

「ん、んん」

「また何か見てる……」

「はい、は……え？」

「ワタシヲ キモチヨク シテ」

「気持ち、良く……」

「それは、その、……えっちな、意味で、ですか？」

「エッチナイミデ！」

（本気で:3）

「わか、りました」

「僕が、その、好きにして、良いん……？」

「エッ」

「ア」

「オ、オネエサマガ！ キモチイイッテ イッタコトヲ スル!？」

（僕もしかして夢でも見てる:3）

「お伝え頂ける……」

「そ、そう、ですか」

（こ、これが、現実か……すごい……）

「い、いえ。頑張ります……」

「自らハードルを上げた……。なんて新しい」

「まず、何をすればいいですか？」

「はい」

「あ」

「はい」

「待ちます」

（あ。……検索、始めちゃった）

（うーん）

（すごく難しい顔してるなあ……）

「もしかしくてもお義姉様、性知識あまりないのでは」

「あ、決まりましたか？」

「はい」

「きす」

「キス、を、する」

「きすを」

（きす……？ こいびと、みたいに？）

（え……？ 都合が、良すぎ、……まって）

（しんこきゅう、しよう）

（うん）

「っすううう」

「はい。します」

「目、瞑って下さい」

「は、あ、ン……、ちゅ、ちゅ」

「ど、どう、ですか？」

「そうですか」

「じゃあ、もうちよつと」

「ン」

「ちゅ、ちゅ……ちゅう、ちゅ」

「気持ちいいですか？」

「えへ。良かったです」

「お義姉様、顔真っ赤で、体温も熱くなって、大変そうですね」

「ちゅ、ちゅ、……ちゅう」

「僕、お義姉様に気持ちよくなって貰うためにやってみたいことあるんですけど」
「良いですか？」

「ん」

「よ、しょと」

「お義姉様、お耳をぺろぺろされるの好きじゃ、ないですか？」
「こうやって」

「気持ち、良いですか？」

（気持ち、良いですね？）

「教えて下さい」

「えへ」

「良かったです」

「では、引き続きご奉仕、致しますね」
「ちゅ」

「おねーさま、えっちなお声出てます」

「奥、グリグリされるのが好きですか？」

「教えて下さる日なんでしょう？ お教え下さい」
「ちゅ」

「こえ、れふか？ こお？」

「きもちいい？」
「ちゅ」

「んふ」

「そうですか」

「じゃあ、こっちもご奉仕、しますね」

「はー、んむっ」

「こっちも、きもちーれふ？」

「ちゅ」

「えへ、好きれふか。うれひーれふ」

「おねーさま、あえぎごえ、えっち」

「ちゅ」

「ン、ん。イっはってくらはい」

「ン、っ、ん、んー……」

「ふぁ」

「どうでしたか？ 僕、ご奉仕できてました？」

（たくさん、たくさん、僕で気持ちよくなってもらえました？）

「えへ」

「本当ですか？ 良かったです」

「僕、また新しいことを知れて嬉し」

（あ、待って。これ『騾』だったな。……嬉しい、とか、言っただい、）
「いです」

（じょうぶそう。うん）

（お義姉様、放心してるし。何も考えられなさそうだからセーフ）
「えへー」

「んー」

（もうちょつとえっちなことで出来ないかなー……）

（……うん、駄目かな。疲労困憊って感じだもん）

「お義姉様、今日はこちらで眠って行けます？」

「くったりして、お疲れのようですし……」

「寝巻きですし、使用人への連絡は僕しておきますから」

「こちらで寝ましょう？」

「僕、えとほら。あー」

（言い訳どうしよう。何か、いい感じの言い訳……）

「ご奉仕した後のお義姉様をお一人にするの、駄目かな、とか思いますし」

「ご奉仕のアフターフォロー的な……はい」

「はい」

（悩まれてそうだから、とりあえず頷いておいて……）

「はい！」

「ちゃんと僕、奉仕の何たるかを学び、ショックを受けました！ 大丈夫です！」

「はい」

（やった！ 納得してくれそう！）

「はい♡」

（やったー！ お泊り決定ー！）

「じゃあ僕、添い寝させて頂きますね！」

「お義姉様も慣れないご奉仕の躰を僕にして下さって、疲れてしまわれましたよね」
「寝て、起きたら焼き菓子食べましょう？」

「んちゅ」

「えへ」

「ご奉仕と言え、寝る前はキスかなって」

（ソースとかはないけど。僕がしたいだけだけど）

「はい」

「ちゅ、ちゅ、ちゅ」

「えへ」

「おやすみなさい」

トラック7 「遠くに行かれてしまう僕のお義姉様」

「どなたですか」

（こんな時間に何の用だ？）

「あ」

（お義姉様の声に）

「お義姉様！」

「いかがなさいましたか？」

「こんな夜更けにお知らせもなくいらっしゃるなんて、お珍しい」

「あう？」

「あ、はい！ 多分、今年だけで十センチは伸びたかも……」

「えへ。お義姉様の身長を抜くのも、もう少しだと思います」

「これからお義姉様のご期待に添えられるよう、鍛錬にも力を入れます！」

「それで今日は、」

「あ」

「え？」

「しょ、留学せ、え？」

「明日から、留学に？」

（一体、それ、……なんにち？）

「き、聞いて、おりません」

「ご当主様からもそのような話、聞いて……」

「ち、違います！」

「お義姉様が奨学生に選ばれたのは、本当に本当に素晴らしいと！」

「おもって、おります」

「ほ、本当に明日からなんですか？」

「いつまで？」

「三ヶ月とか、いえ、二週間くらいの短期留学で、」

「あ」

「三年、長期、留学」

「そ、そう」

「なん、ですか」

「三年も……」

（この、つまらないお屋敷で、一人……）

（おねえさまの、いないせいかつ）

「僕、僕！ 会いに行っても、」

（いつだ、僕が行けそうな時……えっと、えっと、えっと）

「そ、そう！ 長期休暇の間なら構いませんか!？」

「もちろん、勉強も、鍛錬も頑張ります！」

「お義姉様のご期待に添えられるよう、頑張りますから……!」

「本当に!？」

「よ、良かった……」

「明日、笑顔でお義姉様を見送りできるよう、努力致します」

（せめて、笑ってお見送りたいし……）

（……どさくさに紛れて抱きしめてもいいかな……）

（お別れの、……あいさつ、みたいな……）

「今日の訪れは、その、この話をするために……？」

「そ、う」

「では、もうお帰りになられ、」

「んやう!？」

「あ」

「あは」

「僕の躰、に、来てくださったんですね」

「はい、はい……！」

「存分に、躰けて下さいませ」

トラック 8 「お義姉様それ、お別れの贈り物ですか？」

「あう」

（え、えへ、お義姉様に押し倒されるの……すき）

（今から、えっちなことされます、って……分からせられてるみたいだし
（すき）

「ズボン、脱げばいいですか？」
「上、も？」

（?..?..?..?..?）

「上も??..?..?」

（え、なぜ……?..?）

「全部脱げという、ことですか？」

「いえ、脱ぎます。お義姉様の、躰、ですから」

「これで、」

「ン」

「ほえ？」

「ア!？」

（下着かわい、いやそうじゃなくて！）

「お、おね、お義姉様!？」

「お義姉様までどうして脱いで、」

「きやう！」

「ひ、ひい……っ」

「あ、あの、お義姉様」

「僕のちんちんに、お、お義姉様のお股ぐりぐりっ」

「んんっ」

「ろおしょん、とろとろしちゃうんですかあ……？」

(すごい、えっち増し増しだあ♡)

「あう」

「おねーさまのパンツ、ローションで透けちゃって」

「下の毛、薄っすら見えちゃってる……」

「んうっ」

「腰、ア、ゆるゆる、しな、で」

「ン、ン、あ」

「おね、さま」

「僕も、あの、僕も、腰、揺らしても、良いですか？」

「あにやあう！」

「ぐりいつてえ、ぐりぐい、お股押し付け、にや、でえ」

「う、ごめんなさ、ア、騾、なのに、生意気、言つてえごめんなさ」

「あ、あ、」

「お義姉様の、お股からあ、ちんちんの先っぽお、出たりい、入ったりしてえ」
「んっ、ん」

（まるで本物の）

「セックス、みたい」

「あ、あ、や、あつ、おね、さまあ」

「そんなに大きく、腰、動かさな、でえ」

「あうっ」

「さきつぽお、さき、あ、あ、お股でぐり、ぐりつ、しにや、ああ、あ、」

「は、あう？」

「パンツ、痛い……？」

「え」

「う？」

「いや別に、痛くは」

「あ、……ま、て。これ、って、もしかして、もしかするんじゃない……？」

「い、いた、い、かも」

「しれ、ない、……です」

「あ」

「ンッ」

「……あはっ♡」

「脱いで、下さるんですかぁ……?」

「パンツ」

「あ。またどこか見てる」

「何、見てるんだろ」

（絶妙に、……何も無いところ見てるんだよなぁ……）

（まるで検索のためにパネル出してるみたいだけど、でも何も見えないし……）

「んんっ」

「あ」

（すまた、すまただぁ!♡）

「おねーさまの、お股に、僕のちんちん直接……っ」

「にゅぷ、にゅぷ、されてえっ」

「あ、ア、きもち」

「あ、あ、は、はい」

「おね、さまに、僕、ア、やらしーこと、されてます」

「やらしーことされてえ、ンツ、気持ちよく、なっちゃってますうつ」

「んっ、んっ」

「おねえさまのぬるぬるお股で、ちんちん挟まれてえ、ちんちん全部いいこいいこされてえ」

「きもちい、きもち、いい……っ」

「んんんっ、さきつぽお、ぬるぬるでぬるぬるちゅこちゅこお」

「おねーさまのあなに、くぼくぼすゆのらめえ……っ」

「あ、んっ、あうっ」

「気持ちよくて、イッちゃ、イッちゃうからあっ」

「まだ、イきたくな、あ、あ、あ」

「ん、ん、ン、」

（はいっちやいそ、はいっちやう、あは
はいっちやえ）

「んー……っ」

「あ、あうっ」

「あ」

「はい、っちゃったあ」

「ぜ、ぜんぶ、あったかい」

「あ、ご、ごめんなさ」

「お、ねえさま？」

「お顔、まっかですねえ」

「おねーさまあ」

「勝手に、腰動かしてごめんなさい」

「ぬ、抜いた方がいいか、ですか？」

「え、えと」

「えと」

「僕は抜いたほうが良いと、思います」
(つて……、言った方が、あたり、かな)

「きやうっ！」

「あ、ああう」

「あ」

「あは」

「お義姉様の、いじわるう」

「あんっ」

「あ、あ、」

「そ、んなに、腰、揺らさな、で、くださ」

「あっあ、イッちゃう、からあ」

「おねーさまのナカでちんちん、ぬるぬる、ごしごしされて、シコシコされてえ」

「おねーさま」

「おねーさま」

「お別れする、前なので、ンッ」

「僕に、ぼくにい」

「お慈悲をください」

「ぎゅーって」

「して」

「ぎゅーってえ」

「ンッ」

「うれし、です。お義姉様」

「えへ」

「あんむっ」

「おねえさま」

「おねーさま」

「すき、すき」

「ぐちゃぐちゃ、きもちい」

「どろどろ、すき」

「おねえさま」

「は、ああう」

「あ、あ、」

「奥、いいです」

「おねーさまのおく、ぐちゅぐちゅすると」

「おねーさま、きゅうきゅうしてえ、僕のちんちん、ちゅうちゅうしてえ」

「きもち」

「は、あ、あ、あ」

「腰、とまんや、ああ」

「やば、いい、いいです……っ」

「あ、あ、ねえさま、ねーさま」

「なか、ギュッギュってえ」

「ねえさま、止まらな、で」

「僕のちんちん、もぐもぐ、ぎゅーぎゅーして、ビクビクしてとまらな、でえ」

「僕、ぼく」

「も、むり」

「ねー、さまあ」

「も、きちや」

「でちや」

「いく、いく、イツちや、イ、んんーッ」

「あ、あ、は」

「は、あう」

「なかあ」

「だしちや、ったあ」

「えへ。えへへへ」

（暫く会えないんですし、これくらい許してくださいますよね……？）
（おねーさまが、いなくなるのが、……悪いんですから）

「おねえ、さま？」

(え)

「あ、あれ」

「お義姉様？」

(あ)

(え?)

「大丈夫ですか？ あ、あの」

「あ、やば、反応がない」

(本気で気絶しちゃった……。やりすぎた……)

「僕が部屋までお連れ、……あ」

「アハ」

「血だあ」

「えへ、えへ」

「えへへへへっ♡」

「おねーさまの♡ 処女♡ 僕がもらっちゃった♡ えへへへへー」

「大好きです」

「僕の、お義姉様」

「ん、ちゅ」

「必ず、会いに行きますからね」